

# 令和5年度研究プロジェクト研究活動報告

研究種別	■自主研究 16	公益目的事業 19
主査名	金 利昭 茨城大学名誉教授	
研究テーマ	道路の中速帯・中速モードの利活用に関する基礎的研究	
<b>研究の経過（4月～9月）：</b> <p>軽自動車未満の交通手段は、小型化・電動化・自動化に伴って交通モードが多様化している。一方で、道路交通法の改正によって電動キックボード等の新しいモビリティが自転車並みの扱いとなったことにより、これまで自転車交通問題の解決のために鋭意整備されてきた自転車通行帯に自転車以外の中速モードが混在することとなった。本研究は、歩道と車道の上に位置する中速帯の利活用と、中速帯を通行すべき中速モードについて展望する。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・本研究は、中速モードの代表である自転車の教訓を生かすべきとの立場をとる。</li><li>・研究メンバー13人を、研究会とワーキング（WG）分けた。WGメンバーは、これまで自転車研究と施策を中心的に担ってきた7人で構成した（金利昭、吉田長裕、山中英生、元田良孝、松原淳、大脇鉄也、小路泰広）。</li><li>・これまで1回の研究会と4回のWGを行い、自転車に関わる研究と施策を総括するとともに、中速帯・中速モードへの示唆と展望について整理した。この中で、「中速交通は一方向へ整序化することが肝要」との教訓が確認されるとともに、「路上停車、交差点処理、軽車両の不明瞭性、自歩道問題」などの課題が指摘された。</li><li>・上記のWGの成果は、今秋11月に開催される土木計画学研究発表会において、WGメンバーに森本章倫早大教授（都市計画）、牧村和彦IBS理事（都市交通）を加えたスペシャルセッション「中速モードの通行空間を問う、11月26日（日）」を企画し報告する。</li></ul> <p>&lt;SSの趣旨&gt;「これまでの自転車の取り組みを総括した上で、自転車を含む中速モードの共存について、既存の制度枠組みに捕らわれず道路ニーズを総合的に議論し未来を考える視座を洗い出す。」</p> <b>下期へ向けて（課題等）：</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・研究会へWGの経過報告を行い、道路整備の歴史や多様な道路ニーズを踏まえた意見交換を実施する。</li><li>・道路空間利用の歴史的変遷を整理するなかで、歩道・歩行者の位置づけに関して整理する。</li><li>・諸外国における中速帯・中速モードの位置づけ・取り扱いを把握する。</li><li>・我が国において、「中速モードとは何か？ どのようなモビリティを考えればよいか？」を検討する。</li><li>・現行の中速帯（自転車通行帯）をベースにした中速帯の発展的な整備について検討する。</li></ul>		